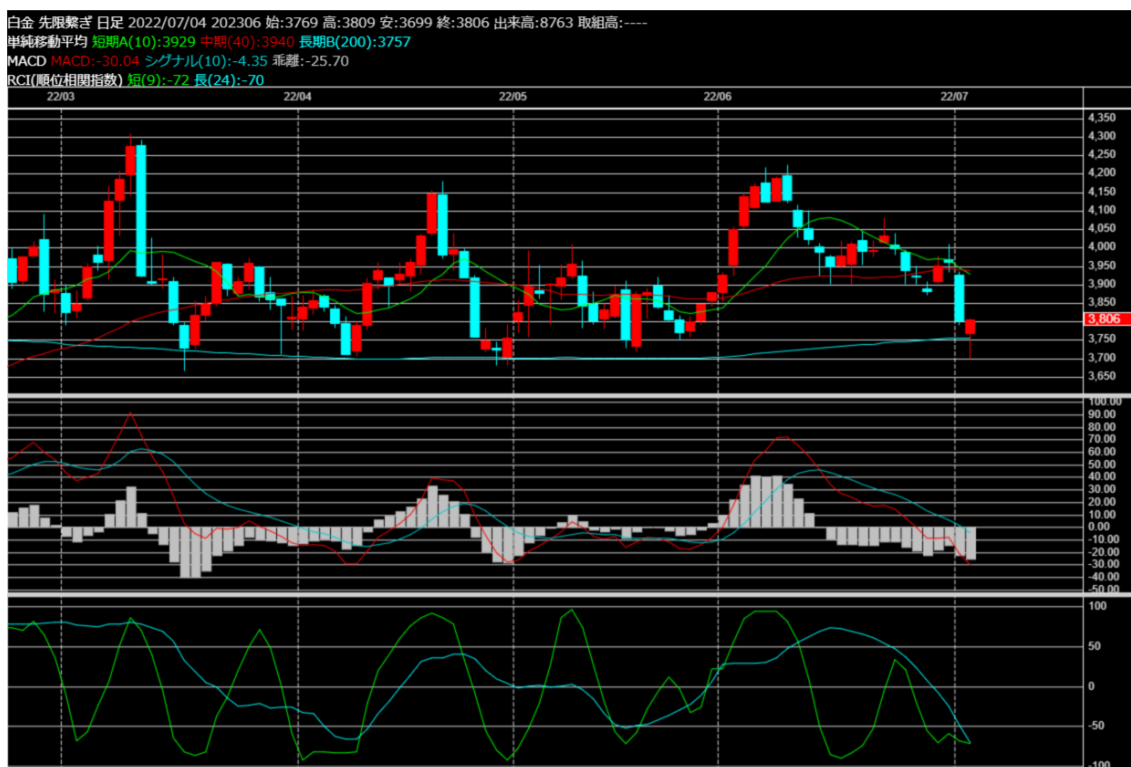


<白金標準先物、200日移動平均線の下値抵抗を確認する・・・>



(出所：オアシス)

ECB 年次フォーラムのパウエル FRB 議長の発言、弱い経済指標の発表に高いインフレ率は、米国や欧州経済のハードランディングのシナリオに基づき、景気後退の懸念を受けて景気商品である銅やアルミ、ニッケルなどの商品価格が大きく値下がりしている。白金標準先物も同様に ECB 年次フォーラムから週末の3日間で4000円から3699円まで反落を見せている。ただチャートから見ても3月以降、様々な要因を受けて3700円を試すが、需給から見た価格はこの水準からは下値抵抗を強めた値動きを示している。

特に南アフリカの国営電力会社エスコムは、予想外の故障やメンテナンスを行う事から総発電量の35%が喪失した状況下で、賃金交渉の決裂に伴う職場放棄も重なり、2019年12月以来の「ステージ6」の負荷制限を実施している。そのため鉱山稼働率が低下し生産量の低下に結び付くと予想される。またプラチナ鉱山の賃金交渉でも、アングロ・アメリカ・プラチナ、インパラ・プラチナム、ノーザン・プラチナは5年契約で合意したが、世界第1位のシバニー・スチール・ウォーターは協議開始したばかりであり、長期化の様相が聞かれるなど、景気後退を織り込むと需給要因の見直しを受けられると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDは下げながら、シグナルも下げているが、MACDは過去の下値である-30%まで届いている。RCIでも短期の下げ渋りと長期の下落でクロスが発生している。また下値抵抗帯の200日移動平均線に日足が届くなど過去の安値同様の反発が起こるか注目される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,451,000 円(2022年7月4日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022年7月4日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>